



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月4日
上場取引所 東

上場会社名 Oakキャピタル株式会社
コード番号 3113 URL <https://www.oakcapital.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 稲葉 秀二
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長兼経理財務部長 (氏名) 秋田 勉 TEL 03-5412-7474
四半期報告書提出予定日 2022年2月4日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|-------|-------|------|---|------|---|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第3四半期 | 1,650 | △51.5 | △817 | — | △733 | — | △1,236 | — |
| 2021年3月期第3四半期 | 3,404 | 54.3 | △632 | — | △815 | — | △782 | — |

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △1,294百万円 (—%) 2021年3月期第3四半期 △584百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第3四半期 | △22.92 | — |
| 2021年3月期第3四半期 | △14.59 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年3月期第3四半期 | 7,249 | 4,054 | 53.9 |
| 2021年3月期 | 7,752 | 4,968 | 61.5 |

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 3,906百万円 2021年3月期 4,768百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2022年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2022年3月期（予想） | — | — | — | — | — |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2022年3月期の配当予想額は未定であります。

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

当社の事業特性上、株式市場の変動要因による影響が極めて大きく、合理的な業績予想の算定が困難であることから、業績予想の開示は行わず、四半期決算の迅速な開示に努めるとともに、合理的な予想が可能となりました段階で速やかに開示を行う予定であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2022年3月期3Q | 59,354,085株 | 2021年3月期 | 53,675,037株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年3月期3Q | 41,328株 | 2021年3月期 | 40,748株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2022年3月期3Q | 53,949,499株 | 2021年3月期3Q | 53,634,919株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
特記すべき事項はありません。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (セグメント情報等) | 9 |
| 3. その他 | 10 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）における我が国経済は、ワクチン接種の進展や供給制約緩和もあり、持ち直しの動きが見られましたが、株式市場は、オミクロン型変異株への警戒感からリスクオフの展開になってまいりました。また、原油価格の高騰と円安による経済への影響などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社グループは、「価値共創企業」をコーポレートスローガンとし、金融事業を中心とした将来の当社グループの成長に資する新たな事業の確立を通じ、強固な経営基盤の構築と新たな価値の創造を目指し、個々の総和を超える価値を生み出すためのイノベーションを進めてまいりました。

2021年12月には、当社グループが担う事業と親和性のあるビジネス領域を対象に、安定収益の獲得を目指し金融ビジネスの多角化の推進を目的に、キャッシュレス決済ビジネスを展開するフィンテック企業である株式会社ユニヴァ・ペイキャストを完全子会社、当社を完全親会社とする株式交換基本合意書を締結いたしました。

金融事業分野

スターリング証券株式会社は、エクイティ・ファイナンス、M&A仲介、成長戦略の提案などの投資銀行業務及び投資家向けの投資ファンドの組成・販売等を通じ、上場企業の課題解決支援や投資家への投資機会の創出に取り組んでまいります。

しかしながら、投資回収が当初の想定を下回ったことなどにより、売上高1億92百万円、セグメント損失3億29百万円となりました。

クリーンエネルギー事業分野

株式会社ノースエナジーは、自社消費型太陽光発電システム、バイオマス発電、蓄電池システム設備の販売・施工などのクリーンエネルギー分野を成長事業として位置づけ、脱炭素社会の実現に向け社会貢献してまいります。

以上の結果、売上高9億55百万円、セグメント損失1億21百万円となりました。

モバイル事業分野

株式会社ノースエナジーの子会社である株式会社ノースコミュニケーションが携帯ショップの運営及びWi-Fiレンタルサービスを展開しております。

以上の結果、売上高4億69百万円、セグメント利益3百万円となりました。

その他事業分野

軽井沢のコミュニティFM局「FM軽井沢」、米国ハワイのリゾートゴルフ場「マカニゴルフクラブ」、フランスの最高級カトラリーブランド「クリストフル」など、様々な人の暮らしに役立つ事業分野を展開しております。引き続き、投資テーマに沿った成長分野に着目し積極的に事業展開してまいります。

以上の結果、売上高38百万円、セグメント損失11百万円となりました。

以上の結果、当期間の連結業績は営業収益（売上高）16億50百万円（前年同期比51.5%減）、営業損失は8億17百万円（前年同期は営業損失6億32百万円）となりました。経常損失は7億33百万円（前年同期は経常損失8億15百万円）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は12億36百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失7億82百万円）となりました。

・重要経営指標

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) |
|------------------------------------|--|--|--|
| 売上高 (千円) | 3,404,013 | 1,650,348 | 5,531,707 |
| 営業損益 (△は損失) (千円) | △632,932 | △817,775 | △706,921 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損益 (△は損失) (千円) | △782,462 | △1,236,356 | △951,190 |
| 総資産 (千円) | 7,761,713 | 7,249,088 | 7,752,638 |
| 純資産 (千円) | 5,044,206 | 4,054,822 | 4,968,722 |
| 投資収益率 (%) | 16.91 | — | 6.17 |
| 自己資本比率 (%) | 62.35 | 53.89 | 61.51 |
| 1株当たり四半期 (当期) 純損益 (△は損失) (円) | △14.59 | △22.92 | △17.73 |
| 1株当たり配当額 (円) | — | — | — |
| 従業員1人当たり営業損益 (△は損失) (千円) | △7,275 | △9,620 | △8,220 |
| 従業員数 (人) | 87 | 85 | 86 |

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ、5億3百万円減少し72億49百万円となりました。減少した主な要因は、現金及び預金の減少によるものであります。負債につきましては、前連結会計年度末と比べ、4億10百万円増加し31億94百万円となりました。増加した主な要因は、短期借入金及び未払金の増加によるものであります。純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ、9億13百万円減少し40億54百万円となりました。減少した主な要因は、第11回新株予約権の行使により資本金及び資本準備金の増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上を上回ったためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の事業特性上、株式市場の変動要因による影響が極めて大きく、合理的な業績予想の算定が困難であることから業績予想の開示は行わず、四半期決算の迅速な開示に努めてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|-------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,245,939 | 1,864,406 |
| 売掛金 | 345,341 | - |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | - | 180,945 |
| 営業投資有価証券 | 290,669 | 327,469 |
| 棚卸資産 | 327,266 | 340,185 |
| 関係会社短期貸付金 | 20,000 | 30,000 |
| 1年内回収予定の関係会社長期貸付金 | 87,450 | 193,561 |
| その他 | 442,740 | 427,850 |
| 貸倒引当金 | △105,288 | △84,788 |
| 流動資産合計 | 3,654,117 | 3,279,630 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 1,207,396 | 1,259,038 |
| その他(純額) | 320,623 | 317,194 |
| 有形固定資産合計 | 1,528,019 | 1,576,233 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 469,016 | 237,199 |
| その他 | 23,236 | 30,927 |
| 無形固定資産合計 | 492,252 | 268,127 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 463,849 | 460,998 |
| 関係会社長期貸付金 | 823,820 | 838,229 |
| 投資不動産 | 313,545 | 313,545 |
| その他 | 556,928 | 572,004 |
| 貸倒引当金 | △85,493 | △85,448 |
| 投資その他の資産合計 | 2,072,650 | 2,099,330 |
| 固定資産合計 | 4,092,923 | 3,943,691 |
| 繰延資産 | 5,597 | 25,766 |
| 資産合計 | 7,752,638 | 7,249,088 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 240,854 | 63,054 |
| 短期借入金 | 567,000 | 753,000 |
| 1年内償還予定の社債 | 68,000 | 73,600 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 99,804 | 107,796 |
| 未払金 | 173,006 | 328,676 |
| 未払法人税等 | 28,795 | 18,041 |
| 引当金 | 29,100 | 11,100 |
| その他 | 147,208 | 504,379 |
| 流動負債合計 | 1,353,767 | 1,859,647 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 181,000 | 209,400 |
| 長期借入金 | 607,594 | 568,102 |
| 引当金 | 62,500 | 101,326 |
| 退職給付に係る負債 | 100,402 | 104,840 |
| その他 | 478,651 | 350,950 |
| 固定負債合計 | 1,430,148 | 1,334,618 |
| 負債合計 | 2,783,915 | 3,194,266 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,282,010 | 4,489,295 |
| 資本剰余金 | 2,136,908 | 2,339,158 |
| 利益剰余金 | △1,633,864 | △2,870,220 |
| 自己株式 | △13,797 | △13,856 |
| 株主資本合計 | 4,771,256 | 3,944,376 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △46,597 | △26,195 |
| 為替換算調整勘定 | 43,801 | △11,787 |
| その他の包括利益累計額合計 | △2,796 | △37,982 |
| 新株予約権 | - | 4,794 |
| 非支配株主持分 | 200,262 | 143,634 |
| 純資産合計 | 4,968,722 | 4,054,822 |
| 負債純資産合計 | 7,752,638 | 7,249,088 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 3,404,013 | 1,650,348 |
| 売上原価 | 2,699,261 | 1,341,923 |
| 売上総利益 | 704,751 | 308,424 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,337,684 | 1,126,200 |
| 営業損失(△) | △632,932 | △817,775 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 25,570 | 26,002 |
| 受取保険金 | 4,725 | 150 |
| 受取給付金 | 8,000 | - |
| 為替差益 | - | 89,359 |
| 貸倒引当金戻入額 | 160 | 20,040 |
| 未払配当金除斥益 | 2,513 | 3,573 |
| その他 | 7,434 | 6,003 |
| 営業外収益合計 | 48,403 | 145,129 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 21,974 | 13,399 |
| 持分法による投資損失 | 93,287 | 44,604 |
| 為替差損 | 106,592 | - |
| その他 | 9,376 | 3,035 |
| 営業外費用合計 | 231,229 | 61,039 |
| 経常損失(△) | △815,759 | △733,685 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 26,649 | 1,043 |
| 特別利益合計 | 26,649 | 1,043 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 13,256 | 1,271 |
| 固定資産除却損 | 0 | 5,907 |
| 役員退職慰労金 | - | 327,000 |
| 店舗閉鎖損失 | 786 | - |
| 減損損失 | - | 227,422 |
| 特別損失合計 | 14,042 | 561,601 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △803,151 | △1,294,244 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,940 | 3,429 |
| 法人税等調整額 | △3,479 | △38,845 |
| 法人税等合計 | 2,460 | △35,415 |
| 四半期純損失(△) | △805,612 | △1,258,828 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △23,149 | △22,472 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △782,462 | △1,236,356 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純損失(△) | △805,612 | △1,258,828 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 201,879 | 20,402 |
| 為替換算調整勘定 | 38,852 | △87,441 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △19,709 | 31,853 |
| その他の包括利益合計 | 221,023 | △35,186 |
| 四半期包括利益 | △584,589 | △1,294,015 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △561,439 | △1,271,543 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △23,149 | △22,472 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期連結累計期間において、第11回新株予約権の行使による払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金207,285千円、資本準備金207,285千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金4,489,295千円、資本準備金1,707,285千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、クリーンエネルギー事業における太陽光発電設備の販売において、設備の販売と同時に契約される土地の賃貸料及び保守サービスについて、これらは同一の商業的目的を有するものとして契約の締結をしていることなどから、それぞれの契約金額にかかわらず、これらの契約を結合した上で、それぞれの独立販売価格の比率により収益の額を配分し、収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、収益認識会計基準等の適用による、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、従来、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品とされていた社債その他の債券以外の有価証券については取得原価をもって四半期連結貸借対照表価額としておりましたが、観察可能なインプットを入手できない場合でも、入手できる最良の情報に基づく観察できないインプットを用いて算定した時価をもって四半期連結貸借対照表価額としております。また、その他有価証券のうち、時価のある有価証券については、期末日前1か月間の市場価格等の平均に基づく時価法から、期末日の市場価格等に基づく時価法に変更しております。

これらによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

金融事業以外のその他の事業について重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連 結損益計 算書 (注) 3 |
|-----------------------|----------|---------------|---------|-----------|--------------|-----------|--------------|-----------------------------|
| | 金融 | クリーン エネルギー | モバイル | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 192,338 | 955,894 | 469,567 | 1,617,800 | 32,547 | 1,650,348 | - | 1,650,348 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | - | - | - | - | 6,000 | 6,000 | △6,000 | - |
| 計 | 192,338 | 955,894 | 469,567 | 1,617,800 | 38,547 | 1,656,348 | △6,000 | 1,650,348 |
| セグメント利益又は損失 (△) | △329,368 | △121,885 | 3,332 | △447,921 | △11,374 | △459,295 | △358,480 | △817,775 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コミュニティFM放送事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△358,480千円には、セグメント間取引消去7,571千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△366,051千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来、「金融事業」のみを報告セグメントとしておりましたが、当社の投資銀行部門を連結子会社のスターリング証券株式会社に移管したこと及び同じく連結子会社である株式会社ノースエナジーの一部の事業を分社化するなどの会社組織体制の変更等に伴い、第1四半期連結会計期間から報告セグメントを「金融事業」、「クリーンエネルギー事業」及び「モバイル事業」の3区分に変更し、新たにセグメント情報の開示を行うことといたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、必要な財務情報を遡って作成することが実務上困難であるため、開示を行っておりません。

また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は単一セグメントであることから、前第3四半期連結累計期間の区分方法により作成した当第3四半期連結累計期間のセグメント情報の記載は省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「金融」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失額は当第3四半期連結累計期間において、227,422千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「金融」セグメントにおいて、のれんの減損を行ったことにより、のれん金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの減少額は当第3四半期連結累計期間において207,002千円であります。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の減損損失額には当該のれんの減損も含まれております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2019年3月期から3期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失となっております。当社グループの中核事業である投資銀行業務を中心とした金融事業では、その事業特性上、投資の実行から回収までに複数年かかることも通常、想定している範囲内であります。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大や米国の連邦準備理事会（FRB）の利上げによる株式市場等への影響などから、既投資案件の回収にさらなる時間を要する可能性が高まっていることもあり、継続して損失を計上していることについて、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと判断いたしました。

これに対して、損益面では、スターリング証券株式会社においては、金融ライセンスを活用したエクイティファイナンス引受けの拡大及び投資ファンドやアセット投資ファンドの組成を図り、安定収益を獲得してゆく計画を進めておりますが、これらの事業展開を加速させるべく、経営体制を刷新し、投資銀行業務における新規投資案件の獲得及びファンドの組成及び販売業務にスピード感をもって取り組むとともに、さらなるコスト削減を進め、早期の黒字化を図るべく計画の見直しを行い、将来の成長に向けて準備も進めております。

資金面では、2021年10月21日の当社取締役会において決議した株主割当による第11回新株予約権の行使による払込金を含め、当第3四半期連結会計期間末時点において当社単体で現金及び現金同等物並びに保有上場株式を合計で12億74百万円の資金を確保しております。加えて、2022年1月以降の新株予約権の行使による払込金及び既存投資資産の資金化を見込んでおり、既投資案件の回収遅延に対する資金繰り補強や既存子会社への成長支援資金及び将来的に成長が見込まれる事業領域にある事業会社の買収資金等に充当する保守的な資金計画を作成しております。以上のことから、当第3四半期連結会計期間末日後1年間に資金不足が生じることはなく、当第3四半期連結会計期間の末日現在において継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。